

2018年01月30日(火)【外為Lab】松田哲
タイトル:【今年(2018年)の相場は、期待できる?】

株式市場には、
「1月の相場が、その年の相場を示唆する」
というアノマリーがあります。

※アノマリーとは、科学的根拠は無いのだが、広く、そう言われる事柄、そう信じられている事柄自然発生的な諺(ことわざ)や格言のようなもの

今年(2018年)の1月は、米株も上昇しましたが、日本の株価も上昇したので、株式相場を見ている投資家にはうれしい兆候でしょう。

外国為替相場の場合は、1月の相場が1年を示唆するというアノマリーは聞いたことが無く、私自身も、そういったアノマリーは無いと思っています。

しかし、今年(2018年)になってからのドル/円が、少し動き出したことは、良い兆候なのではないか、と期待しています。

昨年(2017年)の1年間の値動きは、ドル/円の場合、安値が107円台、高値が118円台程度で、およそ10円程度と言えます。

年間の変動幅が10円しかなかった事は、歴史的に見ても、非常に値動きの狭い1年間だった、と言えます。
(率直に言えば、ほとんど動きの無い1年間だった、と言えます)

動かない相場は、面白くもないし、利益も上げ難い。

乱高下すればいいというわけではないのですが、相応の動きをしてくれないと、取引しようがないというのが本音です。

今月(1月)の外国為替市場を一瞥して、今年(2018年)はそれなりに動いてくれるのではないか、という期待が持てました。

ただし、
「円高局面と円安局面では戦い方が違うことを認識して、相場に臨むべきだ」と、気持ちを新たにしています。

+++++

(2018年01月30日東京時間14:45記述)